

A—84 山梨県産果実のビタミンC含量及び糖度
について(その1)

—桃—

文化女大家政 ○土屋 治美
山梨大教育 小林 豊子

1. 山梨は夏高温で雨量が少ないために、桃の栽培に適しており、品種改良も盛んにおこなわれ、近年全国一の生産量をあげている。

桃は嗜好的価値のみならず、食用適期が比較的ビタミンC給源の乏しい夏期であることからその給源としての栄養的価値も少なくないと思われる。しかし特に新品種についてまだビタミンC含量の測定がおこなわれていない。そこで山梨県産の奨励品種を中心とした各種の桃についてビタミンC含量と、あわせて糖度の測定を試みたので報告する。

2. ビタミンCは2.4ジニトロフェニールヒドラジン法により540 m μ における吸光度を測定し、糖度は糖度計を使用した。

検体は適熟期において山梨県果樹試験場より分譲されたものである。

3. 各種桃の総ビタミンC含量の平均値(mg%)は東極早生(12.8), 布目早生(8.1), 倉方早生(12.4), 砂子早生(9.4), 松森早生(5.6), 白鳳(11.1), 大久保(7.4)を示し, 糖度(%)は東極早生(6.1), 布目早生(8.2), 倉方早生(8.2), 砂子早生(9.0), 松森早生(9.5), 白鳳(10.9), 大久保(11.0)であった。その他の品種(西野白桃, 白桃, 山根白桃, 高陽白桃, 奥白桃, かん桃, にしき, ネクタリン)についてもあわせて発表する。